

第9回 国立天文台サイエンスロードマップ策定委員会議事抄録

日時：2025年8月21日（木） 14時55分～16時22分

場所：国立天文台第一会議室、Zoom

出席者：

（台外）河野孝太郎委員、住貴宏委員（Zoom）、高田昌広委員（Zoom）、高橋慶太郎委員（Zoom）、戸谷友則委員（Zoom）、堀田英之委員（Zoom）、渡邊誠一郎委員（Zoom）
（台内）井口聖委員（Zoom）、生駒大洋委員、齋藤正雄委員、竝木則行委員、藤井友香委員（副委員長）、本原顕太郎委員（委員長）、吉田道利委員（Zoom）

欠席者：

（台外）秋山正幸委員、石原安野委員、濤崎智佳委員、山田亨委員
（台内）都丸隆行委員

陪席：

（台内）土居守台長、堀久仁子特任専門員、金子修研究推進課長、大内香織研究支援係長

1. 確認

1.1 出席者確認

本原委員長から、出席者の確認を行った。

1.2 第8回議事抄録の確認

本原委員長から、7月14日に開催された第8回国立天文台サイエンスロードマップ策定委員会の議事抄録（案）について説明があり、承認された。

2. 報告と議論

2.1 山田委員の辞任について

本原委員長から、他業務との利益相反により山田委員から委員辞任の申し出があり、辞任を受入れることとしたことについて報告があった。なお、本委員会としては後任の補充を要望せず、運営会議の判断に任せることとした。

2.2 ヒアリング

2.2.1 追加採点状況

本原委員長から、各委員による各提案のヒアリング結果の採点及び追加コメントの作成状況について報告があり、この後の各提案者へのフィードバック作成にあたり参照して欲しいとのアナウンスがあった。

2.2.2 第2回ヒアリングに向けた追加 RIX のお願い

本原委員長から、第2回ヒアリングに向けた追加 RIX 作成の依頼があり、意見交換の結果、SRM 報告書でプロジェクトの記述を行う委員が主担当となり9月末までに作成することとした。

(主な意見交換)

ーSRM をまとめる過程で疑問点が出てくるので、そこがある程度出来上がらないと追加 RIX の作成は難しい。コミュニティの将来計画の中で各提案がどのような位置付けなのかということが一つの重要な点である。プロジェクトの記述を担当する委員が責任を持つことが望ましい。

ーその通りである。11 月上旬までに SRM 報告書の素案をまとめる必要があり、9 月中には SRM を書き始めなければならない。追加 RIX の締切は 9 月末までとしたい。

2.2.3 フィードバックおよび SRM 報告書における各提案のまとめ文書作成について

藤井委員から、各提案書に対するフィードバック及び評価まとめの作成に関して説明があり、9 月 16 日までに担当の各委員が第一稿を作成し、次回委員会で議論することとした。

(主な意見交換)

ー提案の評価は行わないことは本委員会で合意済みだが、各提案がより良いものになるため、フィードバック及び SRM 報告書には長所だけでなく短所についても書くべきである。

ーSRM に掲載する計画の優先度を 2 つの粒度で分けることとした。長所と短所を両方書くことで、最重要のものと普通のものということができる形になるのではないか。

ーこの文書の作成にあたってヒアリング結果へのコメントを整理してもらいたい。SRM 報告書の記述として入れ込める形にすることも目的にしている。

ーフィードバックの「改善が期待される点」は、必ずしも追加 RIX の質問やコメントとはしない。基本的にこれまでのヒアリングの結果等で評価するスタンスを維持し、これ以上のインプットは受け付けないことを程度明確にしておくべき。

ーヒアリング結果の評価点はこのまとめ文書に付けることで良い。公開するものではなく、相対的評価の位置付けになる。

2.3 SRM 報告書

2.3.1 「世界的な動向」について

生駒委員から、国立天文台科学研究部に作成を依頼している「世界的な動向」の作業状況について共有があり、現在のところまだ揃っていない旨報告された。

(主な意見交換)

ー「世界的な動向」の作成者には提出された LOI を把握し、SRM の中での位置付けも理解した上で作成してもらう必要があるのではないか。その後に続く文章は世界的な情勢と LOI、コミュニティも意識しながらスムーズにつながるように書かなければならない。導入部分である「世界的な情勢」を自由勝手に書かれると、後の文章が書きにくい。

ー世界的な動向と国立天文台の SRM は整合していなくとも良い。国立天文台が世界的な動向から外れたことを行っているのであればそれも一つの評価である。そのプロジェクト

を否定するのではなく、世界的な動向はこうだからもう少しこちらにシフトする方向性もある、ということを本委員会が SRM の中で書けば良いのではないか。

2.3.2 「第 5 期中期計画における国立天文台の科学戦略」について

藤井委員から、各委員に作成を依頼している「国立天文台の科学戦略」について説明があり、意見交換を行った。

(主な意見交換)

ー世界的な動向の「目標」に含まれていないが LOI が出ている、或いはその逆といったことがある場合には書き方の議論が必要である。それ以外にも気づいた点があれば共有して欲しい。

ー国立天文台の科学戦略の作成フォーマットにある「分野の目標と手法」の一覧表と「観測の進展」の図はどの分野でも共通して必要か。現在の分野分けでは、多様性がありすぎて網羅的なものを作ることが非常に困難な分野もある。

ー他分野から見た時に一目で分かるものを整理しておくことが大事であり、フォーマットは揃えた方が良い。この分野は全然分からないと言い続けてしまうと、結局は分野全体が理解されず優先度が落ちてしまうという悪循環になってしまう。

ー一覧表に書くのは LOI が出ている計画だけなので、そこまで困難ではないのではないか。

ー作成された一覧表を見ると、多くの Nature 論文を出している ALMA が対応装置として載っておらず違和感がある。その辺りの塩梅は最終的にどのように調整するのか。

ー該当する分野の委員を副担当にしている。委員の見識で確認してもらいたい。

2.3.3 第 6 期以降の提言について

吉田委員から、SRM 報告書の「第 6 期以降の提言について」を担当する委員間での意見交換の概要について説明があった。各委員にも考えをまとめておくよう要請があり、次回委員会で議論することとした。

(主な意見交換)

ー何もかも出来る訳ではない中で、どのように次の種を仕込んでいくかが重要。第 5 期にしっかりインプットしておかなければ第 6 期のことは書けないのでシビアな議論が必要である。本委員会で観点を絞った上で、コミュニティの皆さんとも将来シンポジウムで話をしたほうが良いと考えている。

2.4 今後の進め方

藤井委員から、今後のタイムラインについて説明があった。意見交換の結果、提案者へのサイエンス整理の事前送付は行わないこと、及び SRM 報告書の中の「目的」や「SRM 策定手続き」などのメインでない文章の原稿を次回委員会までに作成することを決定した。

2.5 今後の委員会開催日程

本原委員長から、次回の本委員会を 9 月 19 日に開催する旨アナウンスがあり、10 月、11 月及び 12 月の開催について日程調整への協力要請があった。

以上